

令和4年度 学校評価アンケート集計の結果及び対応について

長崎県立鶴南特別支援学校時津分校

- 1 実施期間 令和4年11月18日(金)～12月16日(金)
- 2 対象 本校の保護者及び教職員
- 3 回収率 保護者 94%(対象126世帯 回収119世帯)
教職員 92%(対象72名 回収66名)

4 結果及び考察

(1) 保護者アンケート

【アンケート結果から】

- ・「教育活動」の評価については、各項目とも、概ね昨年度の数値と変わっていません。
「5 児童生徒が主体的に活動しようとする指導内容や学校行事を行っている」と
「9 学校行事や授業などで、一人一人の生き生きとした活動の様子がみられる。」、
「10 児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている。」については、それぞれ昨年度から0.1ポイント上がっています。児童生徒が主体的に取り組み、達成感を味わうことができるように、各部でも引き続き、一人一人の児童生徒の実態に合わせて目標を設定して指導していきます。
- ・「4 保護者の希望や願いの声が届きやすく、学校運営に反映されている。」については、昨年度から0.1ポイント上がっています。これについては、特に個別の教育支援計画の活用が重要かと考えます。日頃からの情報交換や個別面談等とおして、お子様の支援内容を確認し、それを支援計画で明らかにし、学校と家庭で取り組めることを実践していくことができればと思います。
- ・「14 児童生徒の事故防止に努め、適切な指導をしている。」については、昨年度から0.1ポイント下がっています。日頃から学習活動においては、十分に安全面を確保しながら進めているところですが、怪我等発生した場合には、速やかに対応するとともに、ヒヤリハット事例として全職員に周知し、再発防止に努めます。また、児童生徒にも引き続き、安全面の指導を徹底していきます。
- ・「教育環境」の評価については、各項目とも、概ね昨年度の数値と変わっていません。施設・設備の不足や老朽化の問題は、以前から続いていますが、校舎の雨漏りにについては、高等部からではありますが、屋上の改修工事を進めています。次年度以降、順次他の棟にも広げていきます。また、令和6年度からの本校化に向けて、高等部の教室棟の増築や、校長室・事務室の設置及び改修を行います。令和5年度の工事になりますので、工事期間中はこれまで以上に教室が不足します。学習活動が滞ることがないように、何とか工夫しながら進めていきたいと思っています。
- ・「開かれた学校」の評価については、各項目とも、概ね昨年度の数値と変わっていません。今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、学校公開や授業参観などを実施しました。しかしながら、依然として参加人数や時間などを制限しながらの実施で、不十分なところがありますので、最大限できる範囲を検討しながら進めていきます。PTA活動については、今年度も各専門部において、できる範囲で積極的に活動を進めていただき、感謝いたします。また、情報発信については、各学級からの通信、分校だより、ホームページなど、様々な方法を活用しているところですが、ホームページについては昨年度よりも更新回数が増えています。今後も、各部の足並みを揃えながら発信できるように、検討していきたいと考えます。

【自由記述から】

■自由記述においては、施設・設備について、行事や懇談等の設定について、個人情報
の取扱いについて、登校時や職員の対応についてなど、様々なご意見をいただきました。
アンケート結果と併せて、よりよい教育活動に向けて、下記のとおり検討
や改善を図っていきます。

・施設・設備について、遊具の老朽化へのご意見がありました。対策については、日
頃から安全点検を実施していますが、時に危険な個所については早急に対応したい
と思います。また、校内設備の清掃についてもご意見がありました。日頃から快適
に使えるようにしていますが、不十分なところがありましたら、重点的に整えてい
きます。

・行事や懇談等の設定について、その回数へのご意見がありました。日程調整の関係
で、どうしても同じ月に行事や懇談を設定することがあります。できるだけ、同日
に実施できるように調整していきませんが、どうしても別日になる場合があることを
どうかご了承ください。その場合も含めて、できるだけ早めに日程をお知らせした
いと思います。

・個人情報の取扱いについて、作品展における氏名表示へのご意見がありました。氏
名記載の可否については、年度初めに「個人情報掲載に関する同意書」で各ご家庭
に確認していますが、主催者側の方針に合わせて表示する場合があります。今後は、
対象のご家庭に確認するとともに、主催者側とも確認しながら表示について検討し
ていきたいと思えます。

・登校時や職員の対応について、登校時の車の混雑や職員の対応などへのご意見があ
りました。登校時については、昨年度からの児童生徒数増加に伴い、自家用車での
送迎が増えています。従いまして、混雑は避けられない状況ではありますが、一定
の時間に限られています。交通整理担当職員の指示に従い、くれぐれも徐行で安全
に通行されてください。登校時の情報交換については、玄関で混雑しないように、
必要最低限で行うように各職員に周知します。また職員の挨拶が不十分であるとい
うご意見については、昨年度もご意見をいただいております。改善してきたつもり
ではありますが、まだまだ不十分のようですので、職員が率先して行うことができ
るように、引き続きそれぞれの意識を高めていきます。

・おむつの持ち帰りについてご意見がありました。現状においては、衛生面や感染症
予防などの観点から、おむつを各家庭に持ち帰らせています。今後においては、校
内の関係委員会や他校の状況等を確認しながら、方向性を検討していきます。

また、給食のメニューについてご意見がありました。メニューについては、季節や
行事、地域などテーマに沿って様々な工夫が凝らされています。給食は全体的な栄
養バランスを取ることや、望ましい食習慣を養うことなどが目的となります。また、
我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めることなど、様々な
ねらいをもとにメニューが構成されています。従いまして、児童生徒によっては苦
手なメニューがあるかもしれませんが、事前にメニューの特徴を伝えたり、食べ方
に工夫を加えたりするなどしながら対応していきたいと思えます。どうか食育の観
点からもご理解いただきますよう、お願いします。

・その他、「居心地の良い学校です。」「いつも優しく笑顔で挨拶して下さるので、朝
からとても明るく楽しい気持ちになれます。」「担任以外先生方も、子どもの名前を
憶えてもらい、声をかけていただいてうれしいです。」「アットホームな学校で、み
んなで見守ってくれていると感じます。」などのご意見もいただきました。今後も新

型コロナ対策を講じながら、教育活動が停滞しないように、現状の環境でできることを整理し、ご家庭や関係機関と連携しながら児童生徒一人一人に寄り添った指導を心がけていきます。また、本校化に向けた準備も本格化してきますので、今後も本校教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いします。

(2) 教職員アンケート

【アンケート結果から】

- ・「教育活動」の評価については、各項目とも、概ね昨年度の数値と変わっていません。
 - 「1 教育目標には児童生徒の実態に合った教育ニーズや願いが盛り込んである。」
 - 「3 特色ある学年・部経営が行われ、児童生徒の成長のための取組を行っている。」
 - 「5 児童生徒が主体的に活動しようとする指導内容や学校行事を行っている。」
 - 「7 教職員は、専門性をもって指導に取り組んでいる。」については、それぞれ0.1ポイントずつ下がっています。今年度から、県下一斉に校務事務支援システムの運用が始まったことにより、これまで以上に細かく目標設定や評価をすることが求められています。そのことから、職員にはこれまで以上に高い専門性を求められるようになりましたので、今後も研修を重ねながら児童生徒の実態を正確に分析し、ニーズに応じた指導ができるようにしていきます。

- ・「14 児童生徒の事故防止に努め、適切な指導をしている。」については、0.1ポイント下がっています。日頃の学習活動においては、安全面へ十分に配慮し、活動を行っていますが、怪我等の事案が起きた場合は速やかにかつ適切に対処するとともに、他の職員にも周知しながら再発防止に努めます。

- ・「15 学校と家庭が必要な情報を共有し連携した体制になっている。」については、0.1ポイント上がっています。日頃からの連絡帳をとおしたやり取りだけでなく、必要に応じて電話等で直接の情報交換も行っています。また、家庭や関係機関と連携した支援を行うために、教育支援計画の活用も順調に進んでいます。今後も、児童生徒のニーズに応じた支援ができるように、家庭や関係機関と十分に情報共有しながら体制を整えていきます。

- ・「17 児童生徒の将来の夢や願いの実現に向けた情報を提供している。」
- ・「19 現場実習や進路開拓（一般就労・福祉就労等）を十分に行っている。」については、それぞれ0.1～0.2ポイント下がっています。各部においてはキャリアパスポートを活用した指導を進めるとともに、職業をテーマにした学習にも取り組みながら進路指導を進めています。また高等部においては、昨年度に比べると、予定どおりに現場実習を実施することができています。今後も、児童生徒の実態に応じた進路指導ができていくか検証し、足りないところがあれば明らかにしながら卒業後の社会自立や生活自立を目指して指導していきます。

- ・「教育環境」の評価については、各項目とも、概ね昨年度の数値と変わっていません。施設・設備については、限られた状況の中で、なかなかすぐに解消できませんが、学習活動が滞らないように、それぞれの職員で工夫しながら活用しているところです。また、引き続き清潔な学校づくりに努めるとともに、新型コロナウイルス感染症予防対策についても、日頃の健康観察や消毒作業を徹底し、県の感染段階や教育活動レベルに応じて、現状で可能な授業形態や内容を計画しながら進めていきます。

- ・「開かれた学校」の評価については、各項目とも、概ね昨年度の数値と変わっていません。今年度も新型コロナウイルス関係で、外部からの来校者を制限する行事がありましたが、学校公開や各種説明会など、関係者対象の取組は実施することができています。今後もコロナ禍の状況を確認しながら、最大限、対象者を広げることのできるよう計画していきます。情報発信については、ホームページにおいて、特に中学部で積

極的に発信しています。今後も他部とのバランスを取りながら情報発信に努めます。

【自由記述から】

- ・教室の確保や教育課程の改善、教材の共有などについて意見がありました。それぞれの意見については、各部でも共有し、現状や今後の対策を検討し、各部で取り組むこと、学校全体で取り組むことなどを整理しながら、少しずつ改善していきます。特に次年度は、校舎関係の工事を行う関係で、教室使用における制約が出てきますので、その対策が求められます。また、校内研究についても意見がありましたが、これについては各部研究会や研究推進委員会などをとおして、検討していきます。
- ・教室の確保や広さについての意見がありました。次年度から校舎の改修や増築に伴い、使用できなくなる特別教室が出るようになっていきますので、そのような状況の中で授業をどのように展開していくか、工夫が必要となります。例えば、これまで一斉に実施していた時間を分散して実施したり、他部棟の教室を活用したりするなど、お互いに確認しながら進めていきます。また、必要に応じて盲学校の施設利用も考えられます。いずれにしても、前もって調整していくことが必要となります。
- ・教育課程について、小中高で系統的にかつ、発達段階に応じた指導が必要という意見がありました。今年度から校務事務支援システムの運用により、これまで以上に各教科の段階を意識した目標設定が必要となっています。そのためには正確な実態把握が必要となりますが、各部共通した「各教科の到達状況チェック表」などを活用しながら、児童生徒の学習到達状況を確認し、適切な目標と手立てを設定する必要があります。そのためにも、これからは各職員の専門性を高めたり、専門性を生かしたりすることができるよう、学校全体で取り組んでいきます。
- ・教材の共有について、現状においては蓄積が不足や使いづらいという意見がありました。まずは部単位で共有サーバーに保存したり、教具であれば、共通した保管場所を確保するなど、より使いやすい状況になるように、各部で検討していきます。

令和4年度 長崎県立鶴南特別支援学校時津分校 学校評価 保護者アンケート結果

回収率94%

番号	評価内容	今年度	昨年度		小学部	中学部	高等部
1	教育活動	3.5	3.5	0.0	3.6	3.3	3.6
1	教育目標には児童生徒の実態に合った教育ニーズや願いが盛り込んである。	3.5	3.5	0.0	3.7	3.3	3.5
2	教育活動と目標は適切で、保護者に理解を得て実践している。	3.5	3.4	0.1	3.6	3.3	3.6
3	特色ある学年・部経営が行われ、児童生徒の成長のための取組を行っている。	3.5	3.5	0.0	3.6	3.3	3.6
4	保護者の希望や願いの声が届きやすく、学校運営に反映されている。	3.4	3.3	0.1	3.5	3.2	3.5
5	児童生徒が主体的に活動しようとする指導内容や学校行事を行っている。	3.6	3.5	0.1	3.7	3.3	3.5
6	教職員は、自分の個性を発揮し、明るく活気のある学校作りを行っている。	3.5	3.5	0.0	3.6	3.4	3.5
7	教職員は、専門性をもって指導に取り組んでいる。	3.4	3.4	0.0	3.6	3.2	3.4
8	「個別的教育支援計画」について保護者と話し合いながら適切に取り組んでいる。	3.6	3.6	0.0	3.7	3.5	3.7
9	学校行事や授業などで、一人一人の生き生きとした活動の様子がみられる。	3.6	3.5	0.1	3.7	3.4	3.6
10	児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている。	3.5	3.4	0.1	3.6	3.3	3.7
11	基本的な生活習慣や挨拶、礼儀などが、身に付く指導をしている。	3.5	3.5	0.0	3.7	3.3	3.6
12	児童生徒の立場に立った声かけをしたり、相談を受けたりしている。	3.5	3.5	0.0	3.6	3.4	3.6
13	児童生徒の命を尊び、人権を尊重した取組を行っている。	3.6	3.5	0.1	3.7	3.4	3.6
14	児童生徒の事故防止に努め、適切な指導をしている。	3.4	3.5	▲ 0.1	3.5	3.2	3.6
15	学校と家庭が必要な情報を共有し連携した体制になっている。	3.6	3.5	0.1	3.7	3.3	3.7
16	児童生徒の成長に合わせて将来を見通した進路指導をしている。	3.5	3.5	0.0	3.5	3.3	3.6
17	児童生徒の将来の夢や願いの実現に向けた情報を提供している。	3.5	3.4	0.1	3.5	3.3	3.6
18	いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりに取り組んでいる。	3.5	3.4	0.1	3.7	3.4	3.4
19	現場実習や進路開拓（一般就労・福祉就労等）を十分に行っている。（高のみ記入）	3.5	3.5	0.0			3.5
2	教育環境	3.3	3.3	0.0	3.5	3.1	3.4
20	安心・安全な施設・整備が整っている。	3.2	3.2	0.0	3.3	3.0	3.3
21	児童生徒の学習に必要な教育環境が整えてあり、活用されている。	3.3	3.3	0.0	3.5	3.1	3.4
22	校舎内外の施設が整備され、清潔な学校づくりに努めている。	3.3	3.3	0.0	3.4	3.1	3.4
23	学校は、新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底に努めている。	3.5	3.5	0.0	3.6	3.4	3.5
3	開かれた学校	3.3	3.3	0.0	3.6	3.2	3.4
24	学校公開など、地域の人が来校しやすい機会や学校行事を設けている。	3.4	3.4	0.0	3.7	3.2	3.4
25	P T A活動に参加しやすいよう配慮している。	3.3	3.3	0.0	3.4	3.1	3.4
26	学校の情報をホームページや各種便りなどで伝えている。	3.3	3.4	▲ 0.1	3.6	3.4	3.3

令和4年度 長崎県立鶴南特別支援学校時津分校 学校評価 教職員アンケート結果

回収率92%

番号	評価内容	今年度	昨年度		小学部	中学部	高等部
1	教育活動	3.4	3.4	0.0	3.4	3.2	3.6
1	教育目標には児童生徒の実態に合った教育ニーズや願いが盛り込んである。	3.5	3.6	▲ 0.1	3.6	3.4	3.5
2	教育活動と目標は適切で、保護者に理解を得て実践している。	3.3	3.3	0.0	3.4	3.1	3.3
3	特色ある学年・部経営が行われ、児童生徒の成長のための取組を行っている。	3.3	3.4	▲ 0.1	3.4	3.1	3.5
4	保護者の希望や願いの声が届きやすく、学校運営に反映されている。	3.3	3.2	0.1	3.3	3.1	3.5
5	児童生徒が主体的に活動しようとする指導内容や学校行事を行っている。	3.4	3.5	▲ 0.1	3.5	3.1	3.5
6	教職員は、自分の個性を発揮し、明るく活気のある学校作りを行っている。	3.4	3.4	0.0	3.5	3.1	3.5
7	教職員は、専門性をもって指導に取り組んでいる。	3.1	3.2	▲ 0.1	3.3	2.8	3.3
8	「個別的教育支援計画」について保護者と話し合いながら適切に取り組んでいる。	3.6	3.6	0.0	3.6	3.4	3.7
9	学校行事や授業などで、一人一人の生き生きとした活動の様子がみられる。	3.6	3.5	0.1	3.7	3.5	3.7
10	児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている。	3.3	3.3	0.0	3.3	2.9	3.6
11	基本的な生活習慣や挨拶、礼儀などが、身に付く指導をしている。	3.4	3.3	0.1	3.5	3.2	3.6
12	児童生徒の立場に立った声かけをしたり、相談を受けたりしている。	3.5	3.4	0.1	3.3	3.4	3.7
13	児童生徒の命を尊び、人権を尊重した取組を行っている。	3.6	3.6	0.0	3.6	3.4	3.8
14	児童生徒の事故防止に努め、適切な指導をしている。	3.4	3.5	▲ 0.1	3.3	3.2	3.6
15	学校と家庭が必要な情報を共有し連携した体制になっている。	3.5	3.4	0.1	3.5	3.3	3.7
16	児童生徒の成長に合わせて将来を見通した進路指導をしている。	3.3	3.3	0.0	3.2	3.1	3.7
17	児童生徒の将来の夢や願いの実現に向けた情報を提供している。	3.2	3.3	▲ 0.1	3.0	3.1	3.6
18	いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりに取り組んでいる。	3.5	3.4	0.1	3.5	3.3	3.6
19	現場実習や進路開拓（一般就労・福祉就労等）を十分に行っている。（高のみ記入）	3.6	3.8	▲ 0.2			3.6
2	教育環境	3.0	3.0	0.0	3.0	2.8	3.2
20	安心・安全な施設・整備が整っている。	3.2	3.1	0.1	3.3	2.9	3.4
21	児童生徒の学習に必要な教育環境が整えてあり、活用されている。	2.6	2.6	0.0	2.7	2.3	2.9
22	校舎内外の施設が整備され、清潔な学校づくりに努めている。	2.8	2.7	0.1	2.9	2.6	2.9
23	学校は、新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底に努めている。	3.4	3.4	0.0	3.3	3.4	3.4
3	開かれた学校	3.3	3.3	0.0	3.3	3.3	3.3
24	学校公開など、地域の人が来校しやすい機会や学校行事を設けている。	3.3	3.3	0.0	3.4	3.3	3.2
25	P T A活動に参加しやすいよう配慮している。	3.2	3.1	0.1	3.3	3.0	3.4
26	学校の情報をホームページや各種便りなどで伝えている。	3.4	3.4	0.0	3.4	3.6	3.4

1 評価の実施期日・場所等

実施日 令和5年2月20日(火) 14:00~15:00

2 学校関係者評価委員

学校評議員 3名

3 学校関係者評価の内容

(1) 自己評価の結果について

<評価>

- ・保護者アンケート結果を見ると、評価は高いが、今後も職員の高い専門性は重視されるだろう。
- ・職員は明るく、話しやすいという印象をもつ。その話しやすい雰囲気は、指導や意思の共有から出せるものではなく、職員一人一人の人間性の高さから出されているものと感じる。
- ・教育環境について、評価は毎回高くはないが、今年度は少しポイントアップしているようだ。今後も、できる範囲で工夫してほしい。また、ある物や使える物を何とか活用していこうとする気持ちが大切である。
- ・本校化に向けて校舎が増築されるが、恐らく新たな課題が浮上することが考えられる。そのときに、教員たちが悩み考え、工夫していく姿勢をオープンにしていくのも、一つの教育として成立するのではないかと思う。
- ・開かれた学校については、昨年度よりは学校公開などが実施できたかと思う。制限が続いている中でも評価は下がっていないので、保護者等との情報交換が円滑にできているからだと思う。

<学校の対策等>

- ・職員には、これまで以上に高い専門性が求められるので、今後も研修を重ねていきながら、児童生徒の実態を正確に分析し、ニーズに応じた指導ができるようにする。
- ・教育環境については、特に令和5年度には、校舎の増築や改修工事がある関係で、教室が不足するので、学習活動が停滞しないように、既存の環境の中で工夫をしながら指導を進めていく。

(2) 自己評価の結果を踏まえた今後の改善策について

<評価>

- ・ICT機器の活用は、就労面でも必須になることが考えられ、今後も大きなポイントとなりうる。一方で、SNSトラブルも考えられるが、校外では指導のしようがない。校内で指導し、社会でトラブルにならないようにする必要がある。そのための適切な指導をするためには、職員もある程度は操作できるスキルが必要である。

<学校等の対策等>

- ・ICT機器の活用については、児童生徒が一人1台端末を有効に活用できるようにするために、職員研修等とおして、職員のスキルアップに引き続き努めていく。
- ・情報モラルの指導については、SNSノートながさきなどの教材を活用しながら指導を進めていく。同時にスマートフォンやタブレット端末などを上手に活用できるように指導を行う。
- ・各項目における課題を再度整理し、全職員と共通理解のもと組織力の向上を図り、各学部や各校務分掌部において具体的努力目標や手立てを設定して学校運営に取り組む。

(3) 学校の重点目標や自己評価の評価項目について

○特に意見なし

(4) 学校運営の改善に向けた実際の実施について

<評価>

- ・日頃の学習活動において、子どもたちは予測が難しい活発な動きをすることがあるので怪我は付きものである。ヒヤリハットの場面もあると思うが、それが、どういう時期や場所が多いのか、その原因を把握し、繰り返さないことが大切である。また、怪我等があった場合は、迅速な初期対応と保護者等との情報交換が重要である。
- ・一方で、ヒヤリハットの報告にためらい、情報が共有されないことが心配である。ヒヤリハットについてはそれに気付いたときに改善策を講じることができるという、前向きな考えをもってもよいのではないかと考える。
- ・中学部で進路未定の生徒がいるが、次のステップに向けた進路決定が必要なので、早めに対応していく必要がある。

<学校等の対策等>

- ・怪我等が発生した場合には、速やかに対応するとともに、ヒヤリハット事例として全職員に周知し、再発防止に努める。
- ・進路指導については、本人保護者の希望だけでなく、職員側の見立ても含めて検討を行い、その児童生徒に一番適切で、もてる力を十分に発揮できるように、早めに指導を進めていく。